
長い人生の短い人生

五十嵐 喜美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

長い人生の短い人生

【Nコード】

N6357P

【作者名】

五十嵐 喜美

【あらすじ】

500年生きる一族に生まれた。

孤島に一人暮らしていた。

しかしふと孤島以外の世界に興味を持つ。

やっとなおもいでたどり着いた。

しかしそこに待ち受けていたのは予想外の世界。

人生の長い者のあまりに短く、悲しい人生を描くストーリー。

長い人生の短い人生

孤島にある男は住んでいた。

男は十分に生活できた。

というよりも男は、何も食べたり喰ったり、寝たりしなくてもいいのだ。

少なくとも害は無い。食欲や眠気が襲ってくることはあるが、食べても食わなくても良い。また、寝ても寝なくても、良い。

病気になることはあるが、病気で死ぬことは無い。

だってこの男は500年も生きれるのだから。

逆に、500年しか生きれないのである。

この男の一族は、皆そうなのだ。

が、今では皆居ない。

自分が一族の最後だった。

一族で最後に生まれた子だった。

だから、自分のような500年いきる人間はこの世には居なかった。

205年、男はこの島で生きた。

そして、今日男は島を出てみたくなったのだ。

親が、45歳の時まで一緒に居たが、それからずっと孤独だった。

あの海の向こうの未知の世界に行ってみたかった。

男は、海底を歩いた。

100年歩き続けた。

やっと大陸にでることができた。

そこに広がる風景は、彼にとって魅力的なものだった。

ビルが立ち並び、見たことも無い風景がそこにはあった。

男は、母の言っていたことを思い出す。

「この地平線の向こうには、凄いものがたくさんあるんだよ。走る

機械や大きな家、おつかいない拳銃っていう武器や、おいしい食べ物があるんだ。」

男は今見る世界と母の話は違ったが、それでも子供の頃に夢見た世界が今こうしてみえるだけでうれしさを感じていた。

ガラス張りの建物の中に人が居た。

ガラスを叩いて見た。

しかしこちらを向いてくれない。

いろいろなところで試してみたが、反応は無かった。

その時、後ろから声がして振り返ると、年老いたおじいさんが立っていた。

「無駄だよ。このガラスは外から見えても、中からは見えないんだ。外の汚らしい風景を見たくないんだとさ。もう、完全に外と内が隔離されちゃっている。俺達みたいに金のない連中は、中に入れてくれないのさ。もう募集期限が過ぎたから無駄だよ。俺達は一生中には入れない。」

老人は言った。

男は、悲しくなり、涙を流した。

するとおじいさんは、言った。

「まあまあ、そう落ち込むことは無いよ。外の世界でも十分に暮らせるし仲間もいるんだから。」

それから男は、外の世界でおじいさんと一緒に暮らした。

「科学が発展して、外よりも内の方がいいと言う風潮が広がり、しまいには完全に隔離されてしまっているのだよ。」と詳しい話を聞くと、こう言っていた。

それから内の世界など気にせず外の世界で生活していた。

無人島に居た時と同じだ。

10年ほど経って、謎の伝染病が流行した。

男は、病気で死にはしなかったが、周りの人達は次々と死んでいった。

最後には、男は一人になった。

男は、10日ほど泣いた。

10日目の朝、ふとおじいさんが言っていた事を思い出した。

「宇宙を観測するための宇宙に繋がる高いエレベーターの頂上だけ外と繋がっているんだよ。しかしわしは、そこに行く手段なんて無いがのう。」

その時だけ、おじいさんが悲しい顔していた。

いくら外の世界で生活できると言っても、やはり内の世界に憧れずにはいられないのだ。

男は一つ、その高いエレベーターの頂上に行ってみることにした。

彼なら、宇宙空間に放り出されても大丈夫なのだ。

約100年挑戦し続けた。

落ちたり、上ったりの繰り返し。

そして男は、やっと頂上に出ることができた。

しかしそこには誰もいなかった。

よく見ると人骨が散らばっていた。

男は、そこにいてもしょうがないので降りていった。

すると、ガラス張りの建物の中には誰もいなかった。

やはり、そこにあつたのは、人骨だけだった。

内の世界にも伝染病が換気通路を通して広がり、一気に広がったのだ。

しかし男は、そんな事を知る術は無い。

男は泣きまわった。そして自殺しようと首を切ったりもした。

しかし、男は死ねなかった。

男の寿命は、あと約150年だ。

何をすれば良いんだ。

あとこんなに生きなければいけないのか？

男は生きながら死んでいた。

何をする意欲も無く、ただガラス張りのビルに横たわって、150年経ち死んでいった。

長い人生にしては、短い人生だったかもしれない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6357p/>

長い人生の短い人生

2011年1月3日21時55分発行